

太田市自分ごと化会議

2021 からの提案

◀◀ 概要版 ▶▶

太田市自分ごと化会議 2021

令和4年3月

< 目 次 >

1 「太田市自分ごと化会議 2021」実施概要.....	- 1 -
2 地域コミュニティを考える必要性や意義.....	- 2 -
3 地域コミュニティの目指す姿とその姿に近付くための方法.....	- 3 -
I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！.....	- 4 -
テーマ1:安心安全.....	- 4 -
テーマ2:近所付き合い.....	- 6 -
II 元気で楽しい地域をみんなでつくることを目指して！.....	- 8 -
テーマ3:地域コミュニティの運営.....	- 8 -
テーマ4:地域の役員.....	- 11 -
4 ZY2022(ぜったいやるぞ 2022).....	- 13 -
5 付録:アンケート結果(抜粋).....	- 14 -
第 1 回会議参加者アンケート結果	- 14 -
第 2 回会議参加者アンケート結果	- 15 -
第 3 回会議参加者アンケート結果	- 15 -
第 4 回会議参加者アンケート結果	- 15 -

1 「太田市自分ごと化会議 2021」実施概要

○委員

石井 企実子	大熊 英嗣	小澤 正吏	金子 沙織	久保田 悟
小泉 貴代江	澁澤 ももこ	嶋村 友希	高橋 良輔	利根田 美貴
中村 悟市	中村 駿太	西村 美弥子	萩原 佳代	長谷川 孝行
藤生 健吾	堀口 未来	諸林 孔明	矢野 昌克	矢作 正夫
横山 亮太	吉羽 新一			

○テーマ及び各回の議論

テーマ:「地域コミュニティ」

開催日:

- ・第1回会議:2021年11月20日(土)
 - ・自分ごと化会議の概要説明(太田市企画政策課)
 - ・テーマに関する太田市の概要や現状の説明(太田市企画政策課・地域総務課)
 - ・委員の自己紹介など
- ・第2回会議:2021年12月11日(土)
 - ・第1回会議振り返り
 - ・テーマについて議論、「記入シート」の記入など
- ・第3回会議:2022年2月27日(日)
 - ・第2回会議振り返り
 - ・テーマについて議論、「提案シート」の記入など
- ・第4回会議:2022年3月19日(土)
 - ・第3回会議振り返り
 - ・提案書素案を基に議論、「意見提出シート」の記入など
 - ・委員からのこれまでの会議の感想、「ZY2022の発表」

2 地域コミュニティを考える必要性や意義

自助・共助・公助という言葉は、災害が起きるたびに注目され、見直されてきました。自助・共助・公助いずれも重要ですが、近年、地域力の衰えが全国のまちで顕著になっています。地域力が衰え、自分の身を自分で守ることに傾注し、地域に目を向けることが減って、行政はこれまで以上に仕事が増えています。これまで地域で頑張ってきた仕事を行政が担うこととなり、そのことで益々地域力が衰えるという悪循環は、どのまちでも深刻です。

新型コロナウイルスと闘っている未曾有の経験をしている今だからこそ、地域の支え合い、地域の人と人とのつながりの大切さについて、みんなで考えることが必要です。

災害に限らず、行政ではなかなか目の届かない一人暮らしの高齢者や障がい者の支援においても地域の力は重要です。「介護や子育ては家庭だけでどうにもならないケースもある。」という切実な声も聞こえてきます。

地域コミュニティの重要性について再認識し、子どもから子育て世代、高齢者まで国籍に限らず誰もが主人公となり、互いの意思を尊重しながら協力・連携して、豊かな地域をつくる必要があります。

そのためには、豊かな地域づくりのための仕組みを考えることが不可欠です。私たち個人や地域や行政が連携して、その仕組みづくりを考えるため、太田市自分ごと化会議を開催し、様々な議論を重ねてきました。この機会は極めて大きな意義のあるものだと思います。地域のことを一人一人が「自分ごと化」するきっかけになりました。この経験を活かし、太田市の地域コミュニティの未来について、ひいては太田市が幸せなまちとなるよう、引き続き考え、行動していきたいと思ひます。

3 地域コミュニティの目指す姿とその姿に近付くための方法

私たちは「地域コミュニティ」をテーマとして、これまでの地域コミュニティの関係性とは違った、「新しい地域コミュニティの姿」を描くことに挑戦しました。

これまで全4回の議論を重ね、「地域コミュニティの目指す姿」と、「その姿に近付くための方法」を話し合いました。

このような議論の結果見えてきたのが以下の4つの目指す姿です。

4つの目指す姿に近付くための方法を、「私たち市民」、「地域」、「行政」が、それぞれ取り組んでいくことに分けて記載します。

I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！

テーマ1:安心安全

目指す姿 1	誰もが住み続けたいと思える 安心安全なコミュニティ
-----------	------------------------------

テーマ2:近所付き合い

目指す姿 2	互いに支え合うことのできる Win-Win な近所付き合い
-----------	----------------------------------

II 元気で楽しい地域をみんなで作ることを目指して！

テーマ3:地域コミュニティの運営

目指す姿 3	誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる 地域コミュニティ
-----------	-----------------------------------

テーマ4:地域の役員

目指す姿 4	誰もが安心してやりがいを持って活動できる 地域コミュニティの役員
-----------	-------------------------------------

I 命と暮らしを守るコミュニティを目指して！

テーマ1:安心安全

**目指す姿
1** 誰もが住み続けたいと思える
安心安全なコミュニティ

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 子どもから高齢者まで誰もが安心・安全に暮らすために、地域コミュニティで日常生活(子育てや移動手段など)や、有事の対策(防災や防犯など)にできることはなんだろう。
- 地域コミュニティの住環境をより良くするためのルール(ゴミ出しや地域のルールなど)は、どうしたらよいだろうか。

《委員が実際に体験したエピソード》



- 登校途中の旗振り、危ない場所が2か所あるが1か所にしか人が立っておらず、もう一つの場所に誰か立ってくれないかと思っている。
- 公共の交通機関はあまり便利でない。高齢者は免許を返納してしまうと移動しづらくなってしまいう問題もある。
- 狭い道路のところで家から木がはみ出ていたりするが、誰に相談したらいいのかわからない。
- 大雨で冠水した時に見回りの消防車のはまってしまったことがあった。

目指す姿1に近づくための方法

日常生活から地域の人たちへの声かけや付き合いを大切にする。また、地域の中には既に、地域を守る活動(消防団や旗振り)や、地域のつながりを作る活動(子育て、教育のコミュニティ)がある。そうした活動を個人、地域、行政がそれぞれの立場で関わりサポートすることで、地域住民一人一人の繋がりが生まれ、地域の困りごとや危険箇所をみんなが共有することができる。それは災害や犯罪の対策になり、安心安全の地域コミュニティづくりの土台になる。私たち市民は、地域を大切に思う気持ちを強くもち、諦めずに根気強く関わり、行政はそうした活動や声にスピード感を持ってサポートする。

目指す姿1に近付くための具体的な方策

※多くの意見のうち主な意見を掲載しています。

私たち 市民

- ① いざという時に助け合える関係づくり
 - 災害などいざという時に高齢者や障がい者が孤立しないよう、普段から挨拶や声かけをして、助け合える関係をつくる。
- ② コミュニティへの参加
 - 自分の子どもと同世代またはそれより若い世代(自分にも経験のある子育てでサポートできる)を抱える家庭にも呼びかけて、一緒に地域の子育て・教育コミュニティへ参加する。
- ③ 地域のルールを守る
 - 自分の家が利用するごみステーションが荒れていないかごみ出しの時にチェックし、ごみが散乱していたら片づけて道路に影響が出ないようにする。
- ④ 空き家への対応
 - 地域内にある空き家を見つけたら区長に報告する。

地域

- ① 個人間では解決しない問題への関わり
 - 個人間だけでは解決できない問題に、行政ほどの事業は出来なくとも、個人を超えた第三者的・中立的な立場として地域コミュニティが関わる(空き家や猫、ゴミ出し問題など)。
- ② 多様な世代の交流と助け合いの仕組み
 - 高齢者、子育て世帯、子ども達が、お互いに助け合って地域の困り事を解決できる仕組みをつくり、続けて取り組んでいく。
- ③ 「地域を守る活動」を地域全体でサポート
 - 地域内のスクールゾーンや一方通行路の設定、標識が適正かチェックをする。
- ④ 地域を大切に思う気持ちの育成
 - 地域を大切に思う気持ち、良くしようと思う気持ちを強く持ち、ごみなどの問題にあきらめずに根気強く取り組む。

行政

- ① 子どもの居場所づくり
 - 子ども食堂や子どもの居場所作りのために、使われていない公民館や地区の会館を開放する。また、子ども食堂の運営のために(学校終わりの高校生からお年寄りまでを対象に)ボランティアを募集する。
- ② 高齢者の孤立化の防止
 - 高齢者の孤立を防げるように、高齢者のデジタル化を支援する。(スマホ教室実施、警備会社と連携した見守りシステムの導入など)。
- ③ スピード感を持ったサポート
 - 地域が地域を良くしようと行動することに対してスピード感をもってサポートする。

テーマ2:近所付き合い

目指す姿 2 互いに支え合うことのできる Win-Win な近所付き合い

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 誰が住んでいるか分からない、冷たい近隣関係は嫌だ！
- ちょうどよい近所付き合いの仕方がわからない。

《委員が実際に体験したエピソード》



- 近所の高齢者世帯のお庭の草むしりをする代わりに、友人が我が家を訪問したときに車を置かせてもらうなど Win-Win の近所付き合いをしている。
- 転入時、地区のことや、学校、行事など何もわからなかった。たまたま引っ越した先の周囲の昔から住む人が親切だったので地区のことを教えてくれて助かった。
- アパートに引っ越してきた人に自治会加入の案内が届かないこともあった。
- 人のつながりによって情報を得て問題を解決できるケースがある。

目指す姿2に近づくための方法

良好な近所付き合いが生活の幸福度と密接な関係にあると考えている市民が多い。ご近所の助け合い(GIVE&TAKE)が互いの Win-Win の関係をつくり、良好な近所付き合いが生まれていくと考える。そのスタートは「何気ないあいさつ」であり、地域行事などに積極的に参加する勇気だと思われる。それにより生活の満足度を高められるご近所がつくれると思う。さらに、いざという時などの困りごとに対処するための日ごろのサポート体制作りにも繋がられる。

地縁的なつながりのほか、子育てや趣味など、ご近所同士、共感できるテーマごとのつながりをつくり、活動することも良好なご近所の関係につながると思う。

また、外国人との良好なコミュニケーションの構築も欠かせない。外国人と共生する地域を構築するため、翻訳アプリなど有効なツールを十分に活用したい。

目指す姿2に近づくための具体的な方策 ※多くの意見のうち主な意見を掲載しています。

私たち
市民

- ① Win-Win な関係
 - 自分の子どものお手本となるような、ご近所と助け合う Win-Win の近所付き合いをする。

	<p>② あいさつから築く良好な関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 良好な近所付き合いは生活の幸福度とリンクしている。普段の何気ないあいさつから始めて、ご近所と顔の見える良好な関係を築いていく。 <p>③ 地域行事への積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 近所の人と顔を合わせることでできる地域行事(地域清掃など)に参加し、近所の人と関係性を築くきっかけをつくる。 <p>④ 外国人との積極的なコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ スマホの翻訳アプリなどを使って簡単なあいさつから始めてみるなど、外国人の住民とも身近なコミュニケーションから関係性を築く。
<p>地域</p>	<p>① 誰もが参加できる地域イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域の清掃など、誰もが参加できる地域のイベントを企画する。(昨今は地域行事でもないとなかなかご近所との接点ができないと思う。顔見知りになって交流が生まれるきっかけづくりをする。) <p>② 共感できるテーマの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域の中に同じテーマ(例えば子育て世代など)でつながれる場を作り、新しく入ってきた人が溶け込みやすい環境をつくる。 <p>③ 外国人との積極的なコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人の方へも地域の情報が伝わるような仕組みを考える。例えば母国語で読めるようなお知らせを作るなど。
<p>行政</p>	<p>① Win-Win の好事例の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Win-Win な関係づくりができているご近所コミュニティの好事例(GIVE & TAKE)を発信する。 <p>② 行政情報の多国語化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人の住民が地域で安心して暮らせるように情報提供を母国語で行うなどしてサポートする。
<p>その他 (民間企業など)</p>	<p>① 地域と連携した外国人住民のサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 【企業】地域と協力して、外国人の従業員にごみ出しなど地域のルールを説明する。

II 元気で楽しい地域をみんなで作ることを目指して！

テーマ3:地域コミュニティの運営

目指す姿 3

誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる
地域コミュニティ

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 若い人たちが活動に参加できない、参加しにくい。
- 子どもの居場所がない。
- 区費の使い道がよく分からない。
- 誰のためのイベントか分からない。そのイベントを必要とする人たちが楽しめない。
- 毎年、同じイベントしかやらない。
- 地域活動や、子ども食堂などの情報が必要な人につながない。

《委員が実際に体験したエピソード》



- 介護や子育ては家庭だけでどうにもならないケースもあり、女性の負担が大きくなっていると思う。
- 地域で協力して草刈りをし、1%まちづくりを活用し蓮の池を作ったという事例もあった。
- 地域のイベントは子どもが楽しんでいない。親が役員だから仕方なく参加させられていることもある。
- 子供の見守りが少なくなり、旗振り(スクールガード)の人数も減った。
- 高齢者の方が増えていて、認知症のケアが大変。高齢者にとってはごみ捨ても大変なこと。
- 地域のお祭りやかるた大会などをやっても、役員が中心になってしまっている。
- ごみを出そうと思ってもごみ捨て場がすでにいっぱい出せないことがある。
- 引っ越してきても自治会からゴミ出しのルール説明等もなく、出し方もわからないし回覧板も回ってこない。
- ごみステーションの広報が日本語でしか書かれていないため、外国人の方は理解できない。

目指す姿3に近付くための方法

仕事をもちながら地域コミュニティ活動に積極的に参加することが難しいという人は多いが、それぞれが地域のつながりの大切さを認識する必要性はあるという意見があった。自主的な地域コミュニティ活動であるがゆえに「仕事をもちながら」時間的制約のある中での参加が難しいのは否めない。そうした人たちが「地域のつながりの大切さを認識する必要性」を感じていることは財産だと思う。

その基盤に立って、「まず、できることから自分で行動する。」という基本姿勢が大事である。その先に「誰もが主体的に参加できる」仕組みをつくることができると思う。

その仕組みは、「若い世代が活躍できる場」であり、「子どもたちが楽しめるイベント」であり、「デジタルを活用した効率的な地域コミュニティ運営システム」である。

こうした仕組みづくりを進め、「誰もが主体的に参加できる、幸せを実感できる地域コミュニティ」を作りたい。

目指す姿3に近付くための具体的な方策

※多くの意見のうち主な意見を掲載しています。

私たち 市民

- ① まず自分から行動
 - 地域のボランティア活動に対して興味をもち、まずは簡単なものからでもやってみる。
- ② 地域のつながりの大切さの認識
 - 地域の中に人が集まれる場所(居場所)をつくる際に運営を手伝う。
- ③ 積極的な提案
 - 自分の地域にこんなイベントや取り組みが必要ではないかということ提案していく。
- ④ 地域活動への主体的な参加
 - 地域のお祭りなどのイベントに単なるお客さんとして見に行くのではなく、能動的に参加者として参加し、イベントと一緒に盛り上げていく。

地域

- ① 若い世代が活躍できる地域
 - 若い世代が自由に発言できる、やりがいを感じられる運営方法に見直す。
- ② 人が集まる居場所づくり
 - 様々な世代が地域コミュニティに関われるように、地区や地域の〇〇会館などの空き時間は誰でも気軽に立ち寄れる場(例えば Caféなど)として開放して、高齢者から子どもまで世代を越えて交流し、笑顔で支え合える場を増やす。
- ③ 時代に合った新しい活動の導入
 - それぞれの役員間や地域間で地域の課題やその解決方法などの情報共有を行う。
- ④ 地域活動のデジタル化の推進
 - 役員会議などをオンラインで行えるように、オンライン会議に慣れている若い世帯が、慣れていない人に教える。

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 世代を超えたみんなで楽しめるイベント <ul style="list-style-type: none"> ➤ 老人会と育成会が合同で地域イベントを開催するなど世代間交流ができるようにする。 ⑥ 子どもたちが楽しめるイベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子供たちや若い人など色んな世代が企画段階から参加してみんなでイベントをつくりあげる。 ⑦ コロナ禍やコロナ後における地域活動の検討 <ul style="list-style-type: none"> ➤ コロナが流行したことでわかった形骸化した地域活動はやめることも検討する。また、コロナでできなくなっている必要だと思う地域活動はコロナの流行状況も見ながら徐々に復活させていく。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域間の交流促進 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 上手くいっている地域の好事例や、こども食堂・スマホ教室・イベント・独居高齢者対策などの成功事例を市内の他の地域コミュニティに情報共有できる仕組みをつくり、市内全体の底上げにつながるようにする。 ② 地域のデジタル化への戦略的な支援 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域のデジタル化を戦略的に推進する。毎年予算を割り当てる、必要な世帯へはタブレットを貸与して全世帯のデジタル化を目指す、など他の市町村よりも進んだ取り組みをする。 ③ 部門横断的な地域コミュニティの支援体制 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域コミュニティの支援体制を縦割りから部署横断的な体制に見直す。 ④ 地域イベント支援情報の積極的な発信 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域イベントに対する行政のサポートに関する情報を行政が地域コミュニティに提供する。

テーマ4:地域の役員

目指す姿 4

誰もが安心してやりがいを持って活動できる 地域コミュニティの役員

目指す姿に向けてどんな課題があるのか？

- 地域コミュニティの役員は負担が多く、後任も見つからず大変そう…。
- 自治会などのコミュニティに参加すると役員を任せられそうだから加入したくない…。

《委員が実際に体験したエピソード》



- 地区内に親と子の2世帯で住んでいても、子世帯は役員をやらなくて良かったりする。それなのに、地区外から引っ越してきた若い世帯は「若いのだから参加しろ」と言われる。不公平感を感じる…。

目指す姿4に近づくための方法

役員の仕事内容も役員を今誰がやっているのかも良く知らない、また、知っていても大変そうだからやりたくないという声が会議の中では多く聞かれた。

まず私たちは、役員のことに関心を持って知ろうとするとところから始めたい。そして、もし自分に役員をやってほしいという話があった時には断らず取り組んでみたい。

しかし、そのためには今の役員の仕事や仕組みの問題を洗い出して、行政と地域が一緒になって見直しやデジタル化を進めて効率化し、活動へのハードルを下げることも必要だ。また、その役員がなぜ必要なのかがわかることで役員への取り組み方も変わってくる。やりがいやメリットを経験者や助けられた側から生の声で伝えることも必要ではないだろうか。

役員をやりたいと思う人が増えれば、特定の人だけが負担をするのではなく地域の中で分かち合える、支え合えるようになる。

目指す姿4に近づくための具体的な方策

※多くの意見のうち主な意見を掲載しています。

私たち
市民

① 役員への興味関心

- 地域の活動や役員のことに関心を持ち、他人事ではなく自分に何ができるか考え、参加やサポートができることがあれば積極的に参加する。

② 自分なりの役員への挑戦

- よくわからないからという理由だけで役員になることを拒むことはせず、地域の仕事に積極的に参加する。

<p style="text-align: center;">地域</p>	<p>① 役員の仕事の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 行政と一緒に地域の活動を見直し、簡素化を図る。本当に必要な活動に対して必要な役員を配置して優先度の低いものは廃止、統合をする。 <p>② 役員の負担の軽減化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 役員は各業務のとりまとめ役的な立場にして、実際の業務はもっとより多くの人がチームとなって取り組むように変える
<p style="text-align: center;">行政</p>	<p>① 役員の棚卸し・仕分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 何が課題になっているのかをしっかりと認識し、各種役員の総点検(必要性、効果、やりがい、報酬等)を行い、時代に合った制度へ見直す(廃止も含めて)。 <p>② 役員に関する情報の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ おおた広報やホームページで役員のことを取り上げて、どんな事をしているか、どんなやりがいがあるか、目指す地域コミュニティとは?などを載せて、市民が知る機会を作る。(地域の特色などを紹介して何に困っているか、自慢は何かなどを載せるなど) <p>③ デジタル活用による地域活動の効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ デジタルを活用して役員事務や地域活動の効率化を進め、負担を軽減する。情報弱者への対応や利用促進など、行政が積極的に支援する(例えば、行政から必要な情報をSNSでプッシュ型で市民に発信し、回覧板の廃止など事務の効率化を図るなど)。

4 ZY2022(ぜったいやるぞ 2022)

私たちが思い描く地域コミュニティを実現するために
私たちがイマから出来ること、挑戦したいこと



今年は何か最低一つはボランティア活動に参加する。

【諸林 孔明】

広報紙を読む。

【澁澤 ももこ】

消防団の活動を通して地域に貢献する。

【長谷川 孝行】

地方新聞の地域特集や広報の閲覧。
行政主催のセミナー等への参加。

【矢野 昌克】

普段話す近所の人から徐々に近所付き合いを今より広げて、自分がある地域の役員やこれまでのイベント、地域清掃など地域の話題への理解を深める。

【中村 悟市】

太田市 LINE の家族登録と内容把握を徹底。
地域の実態把握のためにゴミ出しをする(妻に協力)。

【久保田 悟】

子どもの居場所作りなどできたらと思う。

【萩原 佳代】

地域コミュニティの活性のためにも、地元の区長さんにお会いして実際に身近で起きている事柄などのお話を聞いてみたい。

【西村 美弥子】

地域の仕事や行事に参加する機会があれば積極的に参加します！

【横山 亮太】

古くて危険な空き家の撲滅。

【矢作 正夫】

太田市のサイトにまめに目を通して現状把握から始める。

【藤生 健吾】

地域の集まりやイベントに積極的に参加して地域の事を少しずつ理解していく。

【吉羽 新一】

5 付録:アンケート結果(抜粋)

第1回～第4回会議にて実施した参加委員を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

第1回会議参加者アンケート結果

Q1 自分ごと化会議に参加してみてもいかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
18人 (86%)	3人 (14%)	0人	0人	0人

Q2 テーマに関する市の現状について、新しい発見はありましたか。

多くあった	少しあった	あまりなかった	まったくなかった
14人 (67%)	7人 (33%)	0人	0人

Q3 地域コミュニティ(隣組、自治会等)について、課題に感じていることがありますか。

大いにある	少しある	あまりない	まったくない
12人 (57%)	7人 (33%)	2人 (10%)	0人

Q4 地域の行事に参加したり、地区の役員などを経験したことはありますか。

頻繁に参加(経験)している	少し参加(経験)している	あまり参加(経験)していない	まったく参加(経験)していない
3人 (14%)	9人 (43%)	5人 (24%)	4人 (19%)

Q5 太田市をより良くするために、特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

住民一人一人	地域の自治会、その他のコミュニティ等	市役所等の行政機関
17件	10件	7件
市議会等の政治機関	民間企業、NPO等	その他
3件	3件	0件

第 2 回会議参加者アンケート結果

Q1 第 2 回会議に参加してみたいかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
14人 (82%)	3人 (18%)	0人	0人	0人

第 3 回会議参加者アンケート結果

Q1 第3回会議に参加してみたいかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない
8人 (73%)	3人 (27%)	0人	0人	0人

第 4 回会議参加者アンケート結果

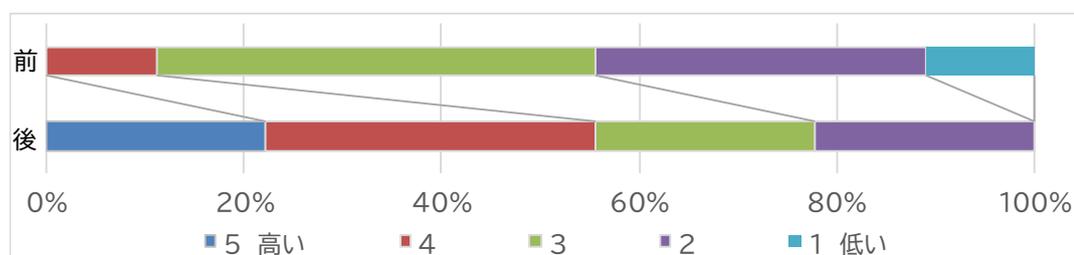
Q1 全 4 回の自分ごと化会議に参加してみたいかがでしたか。

とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった	どちらともいえない	無回答
5人 (56%)	2人 (22%)	0人	1人 (11%)	0人	1人 (11%)

Q3 自分ごと化会議に参加した前後で、あなたの税金や行政・議会への関心や地域づくりに関する頻度など変化はありましたか。

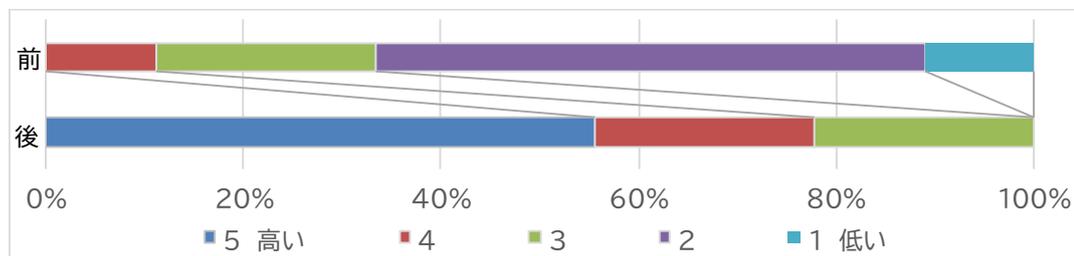
■税金の使い方への関心

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	0人	1人	4人	3人	1人
参加後	2人	3人	2人	2人	0人



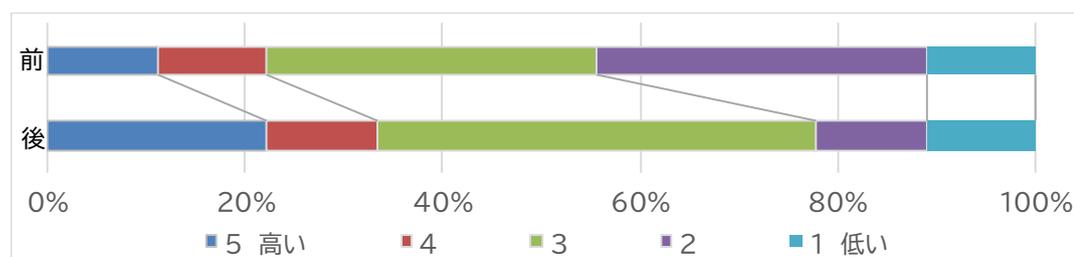
■行政や議会の情報への関心度(広報紙・HP や議会の傍聴等)

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	0人	1人	2人	5人	1人
参加後	5人	2人	2人	0人	0人



■自治会、ボランティア等地域づくりに関わる集まりに参加する頻度

	5 高い	4	3	2	1 低い
参加前	1人	1人	3人	3人	1人
参加後	2人	1人	4人	1人	1人



Q4 自分ごと化会議に参加したことで、「意識の変化」はありましたか。

とても変化した	少し変化した	あまり変化していない	まったく変化していない	どちらともいえない
6人 (67%)	3人 (33%)	0人	0人	0人

Q5 自分ごと化会議に参加したことで、「行動の変化」はありましたか。

とても変化した	少し変化した	あまり変化していない	まったく変化していない	どちらともいえない	無回答
1人 (11%)	4人 (45%)	2人 (22%)	1人 (11%)	0人	1人 (11%)

Q6 テーマ「地域コミュニティ」は、自分ごと化会議で扱うテーマとして適切でしたか。

とても適切だった	まあまあ適切だった	あまり適切ではなかった	まったく適切ではなかった	どちらともいえない
4人 (44%)	4人 (44%)	0人	1人 (11%)	0人

Q8 太田市をより良くするために、特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

住民一人一人	地域の自治会、その他のコミュニティ等	市役所等の行政機関
4件	7件	6件
市議会等の政治機関	民間企業、NPO等	その他
1件	2件	0件

Q9 現在、市の取組やまちづくりに関する活動など興味のある分野はありますか。

興味のある分野がある	特定の分野はないが、市政全般に興味がある	特に興味のある分野はない
4人 (44%)	4人 (44%)	1人 (11%)

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！

